

瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター
平成11年8月2日 第18報

植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Microcystis aeruginosa</i> *	1		
(藍) <i>Microcystis wesenbergii</i> *	1		
(黄鞭) <i>Chromulina</i> sp.	10		
(珪) <i>Cymbella ventricosa</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	30		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	100		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Planktosphaeria</i> sp.	2		
(緑) <i>Monoraphidium tortile</i>	10		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	130		
(緑) <i>Scenedesmus circumfusus</i>	40		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	2		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	1		
(藍) 藍藻綱	2	0.5	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	10	2.7	0.8
(珪) 珪藻綱	40	10.9	6.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	120	32.7	44.0
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	195	53.1	48.9
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	367	総体積 (μm^3)	3.9E+05
種類数	14		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。

動物プランクトン

第1優占種		個体数 (個体/l)
輪虫類	<i>Keratella cochlearis</i> var. <i>microcantha</i>	160
第2優占種		個体数 (個体/l)
甲殻類	<i>Bosmina longirostris</i>	80

*個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

植物プランクトン第1優占種



Pediastrum biwae
(ピワクンショウモ)
緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は、一本の角状突起を持ち、突起同志が対をなすのが特徴である。琵琶湖の固有種とされ、ピワクンショウモと呼ばれている。

動物プランクトン第1優占種



***Keratella cochlearis*
var. *microcantha***
(カメノコウワムシ)
輪虫類

*Keratella*属は背側と腹側の2枚の殻を持つ。基本種の *Keratella cochlearis* は殻の後端が細長く伸びている。var. *microcantha* は後端突起が短い。

コメント:

植物プランクトンは、毎年、夏～秋に増加するピワクンショウモが本年度初めて優占種となった。本種は過去に大量に南湖に出現した種である。
動物プランクトンは、カメノコウワムシが160個体/Lと最も多かった。また、殻の後棘が全くない、変種(var. *tecta*)も60個体/L出現した。いずれも夏～秋に多くみられる種類であり、南湖の代表的なワムシ類である。